



8月17日

聖ヒヤシント・オドロバス 司祭 記念

聖ヒヤシントは、貴族オドロバンス家のお出で、1183年頃ポーランド北部シレジアのブロッラウ近くに生まれ、祖国とイタリアで勉強し、進学や教会法の博士号を得た。司祭に叙階された後、クラフク司教座聖堂参事会員となり1221年ローマへの旅行の途次、聖ドミニコの聖性と説教によりドミニコ会に引かれ、聖人の手から修道服を受けた。同年ボローニャで開かれた総会で親戚のチェスラウと他の二人の間にもモラビアのヘンリーとチュートン（ゲルマン）人のヘルマンと共にポーランドに戻り、ドミニコ会により東ヨーロッパの福音化を始めるよう命じられ、直ちに出発、道すがら説教した。彼らが最初に立ち寄ったところは、オーストリアのフリーザーグで、ここで一行はこのまさに奮闘中の小共同体の院長職をチュートン人のヘルマンに託した。そこからさらにクラフクに向かい1222年にドミニコ会の教会が、イボ・オドロバンス司教により祝別されたのである。

1225年にはブクロウのジェラルド管区長臨席のもと、最初の管区会議が開催された。

聖ヒヤシントの残る生涯は不明瞭で伝説におおわれたものであるが、説教をしボエミア、モラビア、ロシア、プロシアの各地で修道院を創立したと知られており、それはタタール人の侵入のさ中で、また、最初に足を踏み入れた他の修道会の宣教師たちが自分たちの権利を護ろうと聖ヒヤシントらを用心して懸命になったときでもあった。そのすべてを通して彼はその穏やかな態度、謙遜、いんぎんさで評判を保ち続けたのである。彼もまた聖母マリアに対するやさしい愛を持っていたこと、これはドミニコ会の他の多くの聖人たちと共通したところである。

1257年8月15日、クラフクで帰天。

1594年、教皇クレメンス8世により列聖された。

【聖ドミニコ会聖人・福者暦】

1982年、米国ニュージャージー州 サミットドミニコ会ロザリオの聖母修道院発行

1984年、ドミニコ会聖ヨゼフ修道院（瀬戸市東長根町）翻訳

2006年、ドミニコ会岡本哲夫神父（ロザリオ管区）による改定版から